廿三日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ケ月金卅錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

地下採掘問題の第一次委員會召集

調査方針を決定する程度か

（既報）内郷村磐城炭礦出願による平町の地下採掘問題は町民間に於いても賛否兩論に分れ兩派既に猛烈な運動を開始し成行を注目されてゐた折柄また〳〵小田炭礦小田吉治氏名義を以つて平町全町に亘る地下採掘の再出願を見るに至り騒ぎは一層の柏車をかけられた形となつたが前町會に於いて萩原、關内、多田井、馬目（雅）猪狩、井上、野崎七氏を委員とする委員會に附託されたのでその後前記七委員は慎重な態度を以つて思ひ〳〵の調査を進めつゝあつたが愈々來る二十六日午後一時から町會議室に第一回委員會を開催同問題に對する委員會の態度を決定する事になつた、問題が問題だけに此の第一回委員會に於いては各自持寄りの査結果を檢討今後委員會としての完全なる調査方針を決定する程度で即時賛否を決する樣な事は殆んど無いものと觀られるから引續いて數次の委員會召集を見る模樣である。

人！人！人！松ケ岡人で埋る

昨日曜の人出無慮三万

咲いた、咲いた、松ケ岡の櫻は今絶頂の滿開だ。

二十一日の强雨、豪雨に祟られたが昨日の日曜は朝來一片の雲だになく澄み切つた絶好の快晴全山幾百千の櫻樹は一枝も余さず咲き揃つた。

午前十時賑やかな樂隊を先頭に片倉女工團の五百名が繰り込んだのを筆頭に茨城日立鑛山の團体三百、その他續々と詰めかける花見る人群れは正午前さしも廣い公園一杯身動きも出來ない人！人！人！の人の波、人の山だ。

午後一時半ときわ前の舞臺で踊りが始まる頃津浪の樣に押しよせた人、人、人、此んな人出は空前絶後だらう

人足は夜に入つてもますます〳〵加るばかり此の日だけで人出三萬以上と言はれる。

茨城警察部長一行來平

花の松業員の子弟收容の爲めであるか

憧れて茨城縣警察部長高野源進學務部長松本茂一、縣會議員宮田厚、同二田籌、以下各課長、茨城縣政記者團二十余名の一行は自動車五臺に分乘して昨二十三日午後一時來平酒井助役等の案内で松ケ岡の櫻花を觀賞旗亭ときわで晝餐を共にし午後三時歸縣した。

松ケ岡の迷子五人

人群れで身動も出來なかつた昨日の松ケ岡で多賀郡大津町仲町鈴木豊吉五男明（九ッ）君が迷子になつたのを始め迷子四件を數へた。

内郷村民大會

小學校補助金を増加せよと村當局を鞭韃して

磐炭會社に迫る

非常時インフレに煽られ殆んど空前の黄金時代を再現せんとしてゐる炭界好況の影響を受けて常磐炭界第一の大炭礦磐炭所在の内郷村は津浪の樣に押し寄せる勞働者で昨夏來急激な人口膨脹を來たし殊に此等入り込み勞働者の子弟で内郷第一、第二、第三の各小學校の如き全く收容し切れない程の新入轉入者に極度の困憊に陷り此の對策として宮校の十九學級大増加案を計畫するに至つたが、此れは磐炭從業員の子弟收容の爲めであるからその費用半額程度を磐炭の寄附に仰ぎ更らに從來の炭礦からの小學校補助金八千圓を倍額一万五千圓に増加せしむるか至當なりとし今二十三日午後一時から御廐小學校内に於いて村民大會を開催小學校補助金増額、學級増加經費の半額寄附要望を決議村當局を鞭韃して會社に迫る事となつた。

退職の大河原氏へ

郡農會から記念品

退職した前平町收入役大河原金之助氏に對し郡農會長諸橋久太郎氏の名を以て多年郡農會々計たるの功勞に酬い青銅火鉢一ケを贈つた。

またぞろ茨城團体

大津平潟から

茨城縣大津町長、平潟町長兩町町會議員、學校職員、その他一行百余名は二十七日午後一時五十一分平着列車で來平松ケ岡で觀櫻會を開く。

海中を漂流する首なしの死體

二ケ月前に溺死した漁夫と判明

江名町中の作吉田安吉方漁夫鈴木清助（二八）が昨二十二日午前

七首を揮つて仲間を斬る

賭博に負けた腹いせから

豊間村大字薄磯字北前漁夫志賀清治（二九）は昨二十二日午後四時頃同村山下地内山林中で同村漁夫鈴木福太郎（二六）外六名と車座になり丁半の大賭博を開帳中負け込んだ腹いせから些細の事を取り上げて福太郎に喰つてかゝり二三押問答の果て懷中に秘めて置いた刄渡七寸余の七首を揮つて福太郎の背後から突き刺し福太郎が鮮血に染みれてその場に昏倒したのを見濟し逃走村内山林に潜伏してゐたのを届出により追跡した同村駐在巡査の爲めに檢擧された、被害者福太郎は生命危篤である。

若き母の過失

乳房で幼兒窒息

過失致死で即日送檢

平町三丁目二十一菓子商田崎正久の妻トメノ（二七）は昨夜午後十時頃生後八十日目の長女洋子さんを添寝今二千三日午前三時頃乳房を含ませたまゝ熱睡した爲め洋子さんは鼻口を乳房で壓迫窒息死亡した、程經て氣付いた母トメノが發見大騒となり平署から係官出張檢視若い母トメノは取調の上過失致死罪として一件書類と共に送檢した。

磐女修學旅行

明日出發

平町縣立磐城高等女學校四年生約二百名は長島教諭外五氏引率の下に京都、奈良、大阪方面の關西地方見學に明二十四日出發する。

歸宅を肯じない子

平町丹後澤居住竹和ヨシは新潟縣高田市字本町本山長太郎方に預けて置いた私生子マサ子（一三）を引取るべく旅費として金渡した。

甲子講中を募る

夏井村大字菅波甲子大黑天參拜團体を募集します。

一、期日　五月十四日午前十一時平出發

一、參拜費　一圓八十錢

神膳料、神酒料、修祓料、箱札料
自動車往復賃、其他一切を含む

一、希望者は五月十日まで講元佐藤作平宛申込まれ度し

主催　平甲子講

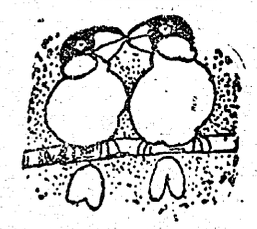
事務所　平町字紺屋町　佐藤作平方
電話四〇九番

廣辯護士

本日送檢

インチキ會社魔事件檢擧の端緒となつた僞辯護士事件の犯人小名濱町字竹町法律顧問社々長高橋義勝（三六）は平署に檢擧以來約一ケ月に亘り帝都證券、帝都融資兩幽靈會社事件に關聯引續き嚴重取調を續けてゐたが昨二十二日一切の取調完了したので今二十三日午前十時一件書類と共に詐欺强喝罪として送檢された。

果右は去二月二十日午前六時頃同町中の作吉田厚所有漁船が歸港の際同港入口で大激浪に襲はれたが海中に呑まれ溺死した漁夫二名の中同家の漁夫會田清次郎（三六）の死体と判明主家に引渡したが五圓を送金したがマサ子は本山方になづいて歸宅を肯じないので長太郎は高田署の人事相談所に出頭マサ子を平に歸したくないから然るべく取計つて欲しいと願出た。



新花田町　暦

△久しく風邪で我折つてゐた湖月の菊枝、花見でスッカリ元氣をとりもどし、松ヶ岡一杯に響けとばかり大聲張り上げて騒ぎ廻つてる。

△『こひの病氣も快くなつた樣だナ……』と言へば『聲だけは治りましたが戀がなほらずに弱ッてます……』は若い癖に口のへらない妓。

△松ヶ岡の舞臺で踊り最中槍をとり落したお染……花柳の師匠から『ナンテー事ッた』と叱られながら小首さかしげて……「でも練習のときは落さなかつッのに……」は秀逸。

花見折詰大勉強致します、大廣間を宴會場として皆樣を御待ちして居ります

御料理・仕出し・折詰

旅館　正月屋

平町新川町　電話六〇九番

入學は毎月初日

磐城女子洋裁專門學院

平町白銀町一五

有給社員招聘

紳士的奮鬪の士を求む

相當優遇す

有隣生命保險株式會社

平出張所

平町大町

所長　鈴木健司

御花見の折詰は！

特賣品を｝｝｝

一名朗折詰です

御一人前　三十錢です

朗献立折詰

魚類（蒲鉾甘煮色々）七品

すし（色々）五品

◎五十個以上は特に御相談に應じます

外に魚折詰。すし折詰

平三、磐察署前通り

魚清食堂部

電話六三三番

例年の通り

魚清自慢の

特製　みつ豆　拾錢

初めました

◎徒弟さん入用　高卒二名、修業後は二百圓の資本金が出來ます（毎月貯金制度）希望者は來談あれ

◎出前持至急入用

花見折詰

壽司、折詰（特別大勉強致します

御注文は特に御相談に應じます

平町田町

うなぎ　魚　榮

電話四二四番

祝觀櫻會

平町旅館組合

ゼブラ自轉車

宮田自轉車　代理店

ヒヒスヤ自轉車店

遞信省御用　電話六六、四番

◎小店員二名入用　眞面目で身体强健の者十四、五歳位委細來談あれ

お花見だんごと餡の御用は

是非評判の武屋製餡所へ

御用命願ます

清鮮なる水で精製した武屋の製餡をお試し下さい、親切を本位として遠近を問はず何程でも御届け致します。

たけ屋製餡所

平町三丁目マルトモ通

漆器の御用は皆樣の丸共へ御用命下さい

卸賣特に御務め勉强致します。

景品賞品類
進物贈答品
恩賜賞與品
記念表彰品
各國產漆器

共榮漆器店

平町三丁目北裏通り

店員募集

本年尋卒　仕着　小使月三圓
同高小卒　仕着　小使月五圓
外交員十八九才より三十才迄

最も堅實なる本會を御利用下さい

上原家政婦會

平町紺屋町二

會主產婆　上原通子

電話六五二番（呼出）

お花見の折詰

例年の通り御引立を願ます

團体の御注文は特に御相談に應じます

御料理　天ぷら　仕出し

平町田町

月廼家

電話三〇四番

米好の花見折

ホガラカナ春!!

花ワライ!!!　鳥ウタウ!!!　時ニ米好特製の花見折を

例年の通り始めました

特別折詰　金二十錢ヨリ

多少に拘らず御注文に應じます

蒲鉾製造　詰折仕出し

四倉本町新道通

米好

電話（呼出）十九番

美紋章

御調製

平町字紺屋町

吉田紋店

電話四七六番

書紋、切附紋、縫紋、紋洗

君はいゝ型の洋服を求められたね。誂だね？いや君コレは四丁目マルトモビル停車場通で販賣中のソレ正札堂さ

四丁目マルトモビル

正札堂

内科　小兒科

花柳病科

藤沼醫院（入院應需）

平町紺屋町

電話平五〇七